

平成27年度「若手教員等研究支援費（若手教員等支援枠）」研究成果報告書

研究課題	演劇的手法を用いた「書くこと」の学習		
氏名	渡辺貴裕	所属 教職大学院	職名 准教授
CITI Japan 研究倫理 e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)			
<p>言語メディアを活用する「書くこと」と非言語メディアを活用する演劇的手法とは、学習手法としてしばしば対比的なもののみなされがちである。両者のつながりが意識されるのは、一般的には、戯曲の執筆とその上演といった形においてである。しかし、イギリスでは近年、Patrice BaldwinとRob Johnによる2012年刊行の書籍 Inspiring Writing through Drama (ドラマを通しての書くことへの触発) などのように、それとは異なる形での両者の結びつきが一部では打ち出されている。</p> <p>そうした状況の調査を行うため、2015年9月にイギリスを1週間訪問した。</p> <p>9月25日にはイギリスのノリッジにて開催された Talk for Writing, Drama and Storytelling の講演およびワークショップに参加し、あわせて、主催者の一人である Patrice Baldwin へインタビューを行った。</p> <p>イギリスでは政権交代以降、芸術系教科への逆風が吹いている。Baldwinによると、ドラマに関して、「書くこと」をはじめとしたリテラシーとの関連を打ち出すには、それによって学校教育におけるドラマの位置を確保したいという思惑もあるとのことである。しかし、もちろん、両者の関連はそれだけではなく、内在的な結びつきも存在する。そうした結びつきがワークショップの内容には現れていた。</p> <p>また、Baldwin へのインタビューでは、彼女が以前取り組んでいた、さまざまな学習場面でのドラマの活用を支援するプロジェクト「D4LC」(Drama for Learning and Creativity: 学習と創造性のためのドラマ)、それを引き継ぎ新たに取り組みつづける「D4TTW」(Drama for Thought, Talk and Writing: 思考と話すことと書くことのためのドラマ) に関する聞き取りも行うことができた。</p> <p>一方、これに先立つ9月21日、22日には、ロンドンにある私立学校 Wandsworth Preparatory School を訪問し、授業観察を行った。</p> <p>同校では、架空の専門家になって依頼を受け問題解決的な活動を行うことでさまざまな領域の学習を行う「専門家のマント」という手法をカリキュラムに取り入れている。両日は、ちょうど、南極への漂流者を助けるレスキュー隊という設定で学習を進めていく単元の開始部分にあたった。そこでは、手紙、広告、イメージマップなどさまざまな形で「書くこと」の機会が設定されており、演劇的手法と「書くこと」との有機的な結びつきが図られていた。</p>			
【研究成果発表方法】			
Patrice Baldwin の取り組みに関する論文を日本演劇学会『演劇学論集』に投稿予定である。			